

大分商學學校

5.12.17

不定期刊物
商事調查部

年九月

臺灣總督府中央研究所梗概

研究資料

分類 3 H

番號 3

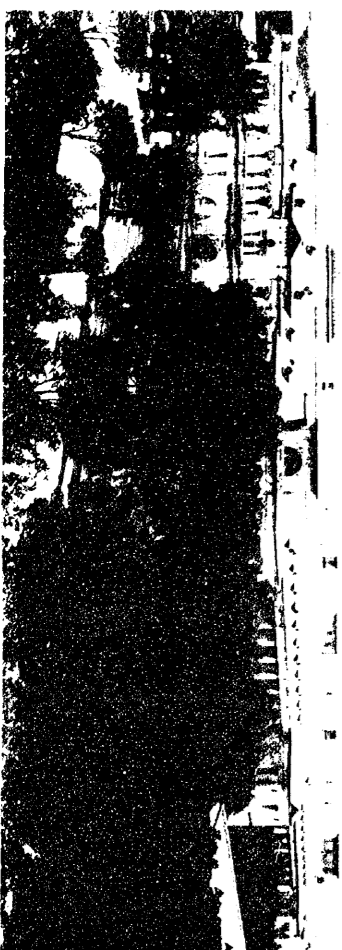
大分商經濟研究所

25x10

32x10

目次

一	沿革	1
二	組織	2
三	各部の概況と事業の綱目	3
(一)	農業部	4
(二)	林業部	5
(三)	工業部	10
(四)	衛生部	13
(五)	庶務課	14
四	評議會	15
五	法令	17



中 央 研 究 所 本 部 之 景

臺灣總督府中央研究所梗概

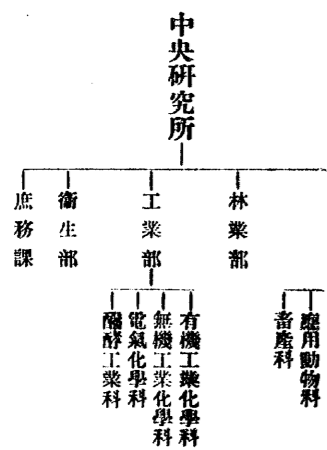
一 沿 革

臺灣總督府ハ明治四十年度ヨリ五箇年ノ繼續トシテ五十五萬圓ノ新營費ヲ支出シ
廳舎ノ築成ヲ俟ツテ四十二年四月一獨立機關タル研究所ヲ設置シタ。然シ當時
ノ研究所ハ唯分ケテ化學部、衛生學部ノ二トシ之ニ專賣局檢定課ノ事務ノ一部ヲ
併セタニ過ギナカッタガ後次第ニ擴張シテ大正五年十二月ニハ化學部、衛生學部、
釀造學部、動物學部及庶務部ノ五部トナシ同七年ニハ更ニ殖産局附屬ノ檢糖所ヲ
モ合スルニ至ツタノデアアル。而シテ之ト相前後シテ總督府ハ本島産業上ノ研究調
査機關トシテ農事試驗場、糖業試驗場、茶樹栽培試驗場、園藝試驗場、種畜場、
林業試驗場ヲ設ケ各ソノ専門ノ試驗研究ニ従事セシメタ。然シカ、ル獨立シタ機
關ナルガ故ニ其ノ間組織的連絡ガ無ク、從ツテ基本調査上統一ヲ缺クノ不便ガ尠

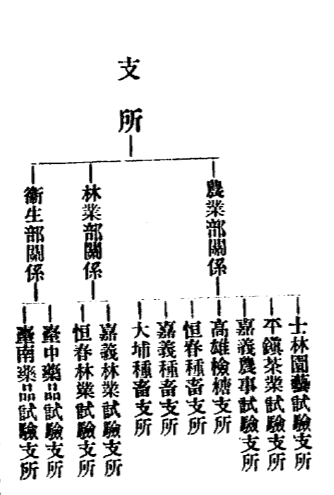
クナカッタ。之ヲ避ケンガ爲ニ大正十年八月二日勅令第三六二號ヲ以テ前記ノ諸機關ガ統一サレ本所ノ設立ヲ見タノデアル。

二組 組織

本所ノ事業ハ一、農業、糖業、林業、工業其ノ他ノ産業及衛生ニ關スル研究、調査、試験、分析、鑑定、講習及講話 二、種苗、種畜、細菌學の豫防治療品其ノ他研究調査又ハ試験ノ結果ニ因ル物料等ノ育成、製造、配付又ハ貸付等デアツテ其ノ目的達成ノ爲メニ左表ノ如ク農業部、林業部、工業部、衛生部、庶務課ノ四部一課ニ別ケテキル



之ヲ總括スル中央研究所本部ハ臺北市幸町ニ在リ地方ニハ左表ノ如キ十一箇所ノ支所ガアル。然シ臺南州新化ニ在ル糖業科(元糖業試驗場)ハ所管事業ノ性質ト内容上ヨリシテ之ヲ支所トセズ前表ニ示スガ如ク特ニ農業部ノ一科トシテキル。



三 各部、課、支所ノ概況ト事業ノ綱目

組織ハ上記シタ通デアルガ、所長ハ總務長官之ニ當リ部長、科長ハ技師、課長ハ事務官ヲ以テ之ニ充テ支所ニハ支所長又ハ主任ヲ置キ技術官ヲ以テ之ニ充テキル。各官ノ定員ハ事務官一名、技師三十六名、屬十六名、技手七十二名デア

ツテ各部、課又ハ支所ニ屬シソレゾレ分掌ノ事務ヲ擔當シテキル。而シテ部又ハ支所ニ於ケル調査研究ノ結果ハ報告書又ハ彙報ヲ以テ時々發表スル事ニシテキル。次ニ部、課、支所ノ狀況ヲ概説スル。

一 農業部 當部ハ臺北市ノ南端富田町ニ在リ明治三十六年十一月總督府農事試驗場トシテ創立サレ中央研究所設立ノ際明治三十五年創立セラレタ糖業試驗場及

元研究所動物學部ヲ合シテ其ノ一部ヲ成シタモノデ之ガ六科ニ分レテキル事ハ前述ノ通りデアル。職員ハ關係各支所ヲ合シテ技師二十名(內兼任技師三名)技手三十一名(內兼任技手三名)有シ部長ノ下、科又ハ支所ニ屬ス、各科ノ分掌ハ次ノ通りデアル。(本文中ノ兼任者、兼務ハ本所内ニ於ケル者ヲ云フ)

種 藝 科 技 師 二名(內兼任一名) 技 手 四名

- 一 農作物ニ關スル試驗研究
- 二 農具ニ關スル試驗研究
- 三 品種ノ改良及育成ニ關スル試驗研究

農藝化學科

技師 五名(內兼任三名) 技手 五名(內兼任一名)

糖業科

技師 四名(內兼任二名) 技手 七名(內兼任一名)

植物病理科

技師 一名 技手 三名

應用動物科

技師 三名(內兼任一名) 技手 二名

畜産科

技師 二名(內兼任一名) 技手 二名(內兼任一名)

關係支所

士林園藝試驗支所 技師 一名

士林園藝試驗支所

臺北州七星郡士林庄(臺北市ヲ距ル)ニ在リ、元殖産局附屬園藝試驗場ノ改稱デア

關係支所

ツテ明治四十一年一月ノ創立ニカ、ル。園藝諸般ノ試驗、調査ヲ分掌トシテキ

ルガ就中柑橘類ニ關スル試験、調査ヲ主要事業トシ其ノ種苗ノ改良、育成、配布ニ力ヲ注イデ居ル。

平鎮茶葉試驗支所

技師 二名(内兼務一名) 技手 一名
新竹州中壠郡楊梅庄ニ在リ元殖産局附屬茶樹栽培試驗場ノ改稱デアツテ明治四十三年ノ創設ニカ、ル。専ラ茶樹並製茶ニ關スル試験、調査並種苗ノ改良、育成、配布ノ事務ヲ分掌シテキル。

嘉義農事試驗支所

技師 三名(内兼務二名) 技手 三名
臺南州嘉義郡嘉義街山仔頂ニ在リ大正七年七月設置サレタ農事試驗場支場ト園藝試驗場支場トヲ併合シタモノデアツテ用地約二十四町歩、熱帶農作物及熱帶果樹ニ關スル試験、調査並其ノ種苗ノ改良、育成、配布ノ事務ヲ掌ツテキル。

高雄檢糖支所

技師 一名 技手 三名
高雄州高雄市ニ在リ、明治四十五年殖産局檢糖所トシテ創設セラレ大正七年研

究所ニ併合更ニ中央研究所ノ一支所トナツタノデアアル。而シテ砂糖、肥料、其ノ他砂糖ニ關係アル物料ノ分析、檢定、試験並砂糖ニ關係アル光學器械類ノ檢定ヲ行ツテキル。

恒春種畜支所

技師 一名 技手 一名
本島ノ極南高雄州恒春郡恒春庄鷺鑾鼻ニ在リ用地千三十七町歩餘ヲ有ス。明治

三十八年恒春廳ニ於テ創設セラレ後同四十二年殖産局ノ所管トナリ更ニ本所ノ支所トナツタノデアアルガ本支所ニ於テハ畜産ニ關スル試験、調査、種畜ノ改良就中印度牛ヲ用ヒテ本島在來牛畜ノ改良ヲ圖リ其ノ蕃殖、育成、貸付ヲ爲シ又緬羊、山羊、馬等ニ關スル試験、研究及飼料ニ關スル試験、調査等ヲ行ツテキル。

嘉義種畜支所

技師 一名 技手 一名
臺南州嘉義郡嘉義街紅毛ニ在リ。其ノ分掌ハ前者ト同ジデアアルガ就中乳用牛「シンド」種ノ改良、蕃殖、育成、貸付等ヲ主ナル事業トシテキル本支所ノ前身ハ殖

産局附屬種畜場嘉義支場(大正八年十月設立)デアツテ所屬用地ハ百七十九町餘アル。
大埔種畜支所 技手 一名(兼務)

臺南州嘉義郡大埔庄(約嘉義街ヲ距ル)ニ在リ。三千九百三十三町五段餘歩ノ土地ヲ有シ其ノ分掌ハ前二者ト同ジデアアルガ就中本島在來水牛ノ改良、蕃殖、育成ニ主力ヲ盡シテキル。前身ハ殖産局附屬種畜場後大埔支場(大正七年九月設立)デアアル。
(二) 林業部 當部ハ臺北市南門町ニ在リ其ノ前身ハ明治四十四年ノ創立ニ係ル林業試驗場中央研究所ノ設立ト共ニ其ノ一部ヲ成シ林業ニ關スル調査研究ノ首腦關デアアル。其ノ構内試驗地ハ植物園デアツテ總面積五萬二千三百八十七坪アル。本園ハ一般植樹ノ獎勵ト植物研究ノ資料ニ供セラレ其ノ蒐集シタ植物ハ千數百種ニ達シテキル。

本部ノ事業ハ大體三ツニ分ケル。即チ殖育試驗、利用試驗及植物調査デ、殖育試驗ハ有用植物ノ種苗及造林ノ試驗並ニ調査テ利用試驗ハ林産利用、特ニ木材ノ物理試驗、木材ノ工藝的性質ノ研究及耐蟻試驗等デアアル。植物調査ハ本島産植物ノ分類及分布ノ調査ヲ爲シソノ貯藏腊葉標本數ハ凡ソ三萬ニ達シテキル。
臺中州新高郡蓮華池ニハ本部所屬ノ藥用植物栽培試驗地(面積約四百四町步)ガアリ、内外ノ香料及藥用植物ノ試驗並有用樹木ノ造林試驗(就中安南漆ノ採液試驗ナド成績ノ見ルベキモノガアル)ヲ行フ。職員ハ技師二名、技手五名アリ之ガ左ノ關係ニ箇所ノ支所ニモ分屬シテキル。

嘉義林業試驗支所 技師 一名(兼務) 技手 一名

本支所ハ臺南州嘉義郡嘉義街山仔頂ニ在リ明治四十二年十月護謨樹ノ試植地トシテ設立セラレタルニ始リ同四十四年林業試驗場嘉義支場トナルヤ廣ク各種ノ有用植物ヲ試用スルト共ニ苗圃ヲ設ケテ試驗並配付ヲ行ツタ、地積ハ坪仔頭ニ在ル試驗地ヲ合シテ約十六町步アリ主トシテ護謨ニダラベルギアシツソ「チー」等熱帯有用樹木ノ殖育試驗ヲ行ツテキル。尙別ニ嘉義郡中埔庄ニ移植試驗

地千六百二十一町歩餘ガアツテ「タルベルギアシツソ」「チーク」、鐵刀木、錫
蘭肉桂其ノ他有用植物ノ造林試驗ヲ行ツテキル。

恒春林業試驗支所 技師 一名(兼務)

高雄州恒春郡恒春庄ニアリ種畜支所ヲ距ル事約二十町北方ニ位置シ面積五百七十町歩餘、遠ク明治三十年中熱帶植物殖育場トシテ創設サレタモノデアツテ附近一帶ガ熱帶特有ノ景觀ヲ呈スル一仙境デアル。主トシテ毛柿、珈琲、マホガニ、爛心木、ヲガタマ、各種椰子、木麻黃及「ラウクス」等ノ栽培試驗ヲ行ツテキル。一時ハ熱帶樹ヨリ各種染料採集並製炭試驗等ヲ行ツタガ大體終了シタノデ今ハ中止シテキル。

(三) 工業部 當部ハ衛生部及庶務課ト共ニ臺北市幸町ノ元研究所内ニ在ル敷地面積七千五百八十六坪、建物坪數三千九百二坪ハ其ノ總面積デアル。當部ノ起原ハ前述ノ如ク明治四十二年總督府研究所ノ創設サレタ時專賣局檢定課ノ事務ヲ引繼キ更ニ其ノ内容ヲ擴張シ殖産上ノ試驗、研究、調査ト醫療藥品ノ檢査ヲモ行ヒ來ツタ同所ノ化學部ガ其ノ濫觴デアル。爾來研究所ハ次第ニ事務ヲ擴張シ醸造學部ヲ新設シ醸造化學並食品化學等ノ試驗、研究ヲ爲シタガ中央研究所ノ設立ニ當リコノ化學部ト醸造學部トガ當部ヲ成シ當初之ヲ化學工業科、電氣化學科及醸造科ノ三科ニ分ケテキタガ、昭和二年七月左記ノ如キ改正ヲ見タノデアル。職員ハ技師十五名(內兼任五名)技師十八名(內兼任一)部長ノ下、左ノ通各科ニ分屬シテキル。各科ノ分掌ハ次ノ通りデアル。

有機工業化學科 技師 四名(內兼任一) 技師 三名

一 有機工業化學ニ關スル試驗研究

二 有機工業化學ニ關スル物料ノ試驗、分析、檢定及鑑定

無機工業化學科 技師 三名(內兼任一) 技師 九名(內兼務)

一 無機工業化學ニ關スル試驗研究

二 無機工業化學ニ關スル物料ノ試験、分析、檢定及鑑定
電氣化學科 技師 一名 技手 二名

一 電氣化學ニ關スル試験研究

醱酵工業科

技師 六名(内兼任三名) 技手 五名(内兼任一名)

一 醸造及醱酵菌類ニ關スル試験研究

二 醸造及醱酵ノ化學ニ關スル試験研究

三 酒類、酒精及其ノ材料品ノ分析試験ニ關スル事項

四 其ノ他醸造ニ關スル試験研究

(四) 衛生部 當部ガ元研究所内ニ在ル事ハ前記ノ通デアアル中央研究所新設ノ際元研究所ノ衛生學部ヲ骨子トシ化學部所管デアツタ醫療藥品ノ試験小分事務ト醸造學部所管デアツタ食品化學ノ業務ヲ合シテ當部ヲ構成シタノデアアルソノ分掌ハ

一 細菌及原生動物學ニ關スル試験研究

二 傳染病及寄生蟲病ノ病原、病理、豫防治法及治療法ニ關スル試験研究

三 熱帯衛生ニ關スル試験研究

四 實驗的病理學及治療學ニ關スル試験研究

五 衛生化學ニ關スル試験研究

六 血清、疫苗及細菌學的豫防治療用品等ノ製造並配布

七 醫療用品ノ檢査

八 其ノ他衛生ニ關スル試験研究

等デアアル職員ハ技師十名(内兼任三名)技手十名デ尙關係支所ニ屬シテキルモノハ次ノ通りデアアル。

臺中藥品試驗支所

技師 一名(兼任) 技手 一名(兼任)

臺中州臺中市ニ在リソノ前身ハ研究所臺中分室デアツテ本島中部地方ニ於ケル醫療藥品ノ試験小分ヲスルノガ當支所ノ事業デアアル。

臺南藥品試驗支所

技師 一名(兼任) 技手 三名(内兼任一名)

臺南州臺南市ニ在リソノ前身ハ研究所臺南分室デアツテ本島南部地方ニ於ケル

醫療藥品ノ試験小分ヲ行ツテキル。

(五) 庶務課 事務官 一名 屬 十七名(内兼務一名)

工業、衛生兩部ト共ニ臺北市幸町(元研究所内)ニ在リ

- 一 職員ノ進退及身分ニ關スル事項
- 二 機密、官印及文書ニ關スル事項
- 三 圖書、器具、機械ノ保管ニ關スル事項
- 四 會計及統計ニ關スル事項

等ヲ分掌シテキル而シテ屬官中ニハ必要アル部、科又ハ支所ニ於テ前記ノ事務ヲ擔當シテキル者モアル。

四 評議會

前記各項ニ記シタル如ク當所ノ事業ハ本島ノ産業上、衛生上ニ緊密ナ關係ヲ有スルニ依リ他ノ關係部局トノ連絡ヲ保ツ必要ガアルノデ評議會ガ所長ノ諮問機關トシテ設ケラレ、會員ハ總督府部内高等官中ヨリ任命サレテキル。

五 關係法令

○臺灣總督府中央研究所官制 (大正十年八月勅令第三六二號、改正大正十三年勅令第三三號、昭和四年勅令第一九二號、昭和四年勅令第一九三號、昭和四年勅令第一九四號、昭和四年勅令第一九五號)

第一條 臺灣總督府中央研究所ハ臺灣總督ノ管理ニ屬シ左ノ事項ヲ掌ル
一 農業、糖業、林業、工業其ノ他ノ産業及衛生ニ關スル研究、調査、試験、分析、鑑定、講習及講話
二 種苗、種畜、細菌學の豫防治療品其ノ他研究調査又ハ試験ノ結果ニ因ル物料等ノ育成、製造、配付又ハ貸付

第二條 臺灣總督府中央研究所ニ部及課ヲ置ク

部及課ノ事務ノ分掌ハ臺灣總督之ヲ定ム

第三條 臺灣總督府中央研究所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
 部長
 事務官 專任 一人 奏任
 技師 專任 三十六人 奏任 内一人ヲ勅任ト爲スコトヲ得
 屬 專任 十六人 判任
 技手 專任 七十二人 判任
 第四條 所長ハ臺灣總督府總務長官ヲ以テ之ニ充ツ臺灣總督ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ總理ス
 第五條 部長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ所長ノ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理ス
 第六條 事務官ハ所長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル
 第七條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
 第八條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第九條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
 第十條 臺灣總督ハ必要ト認ムル地ニ臺灣總督府中央研究所支所ヲ置クコトヲ得其ノ位置及名稱ハ臺灣總督之ヲ定ム
 第十一條 第一條ノ事項ニ關シ所長ノ諮問ニ應セシムル爲臺灣總督府中央研究所ニ評議會ヲ置ク
 評議會員ハ關係臺灣總督府部内高等官ノ中ヨリ臺灣總督之ヲ命ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 臺灣總督府農事試驗場官制及臺灣總督府研究所官制ハ之ヲ廢止ス
 本令施行ノ際現ニ臺灣總督府農事試驗場又ハ臺灣總督府研究所ノ技師、書記又ハ技手タル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ各臺灣總督府中央研究所ノ技師、屬又ハ技手ニ同官等俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

○臺灣總督府中央研究所事務分掌規程

(大正十三年八月府訓令第一三九號改正
昭和二年府訓令第一〇五號
昭和二年府訓令第四二號同第六三號)

第一條 中央研究所ニ農業部、林業部、工業部、衛生部及庶務課ヲ置ク
第二條 農業部ニ種藝科、農藝化學科、糖業科、植物病理科、應用動物科及畜產科ヲ置ク

第三條 農業部種藝科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 農作物ニ關スル試驗研究
二 農具ニ關スル試驗調查
三 品種ノ改良及育成ニ關スル試驗
四 種苗ノ鑑定及配布
第四條 農業部農藝化學科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 土壤及肥料ニ關スル試驗調查

二 農作物及農產物ノ化學的研究
二 農產物製造及貯藏ニ關スル試驗研究
四 農業上ニ關係アル物料ノ分析及鑑定
第五條 農業部糖業科ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
一 甘蔗及輪作物ニ關スル試驗研究
二 製糖及副產物利用ニ關スル試驗研究
三 甘蔗品種ノ改良及育成ニ關スル試驗
第六條 農業部植物病理科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 植物病害及有益菌ニ關スル試驗研究
二 農業微生物ニ關スル調查研究
三 植物病害ノ防除用藥品及器械ニ關スル試驗調查
第七條 農業部應用動物科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 害蟲及益蟲ニ關スル試験研究
- 二 有用動物、有害動物ニ關スル調査研究
- 三 害蟲及有害動物ノ防除用藥品及器械ニ關スル試験調査

第八條 農業部畜産科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 家畜及家禽ニ關スル試験研究
 - 二 畜産物ノ製造ニ關スル試験研究
 - 三 家畜飼料ニ關スル試験研究
 - 四 種畜、種禽及種卵ノ改良、育成及配布
- 第九條 林業部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 有用樹木ニ關スル試験調査
 - 二 木材ノ利用、造林及森林ノ保護ニ關スル試験研究
 - 三 種苗ノ改良、育成及配付

二三

第十條 工業部ニ有機工業化學科、無機工業化學科、電氣化學科及醱酵工業科ヲ置ク

- 一 有機工業化學ニ關スル試験研究
 - 二 有機工業化學ニ關スル物料ノ試験、分析、檢定及鑑定
- 第十一條ノ二 工業部無機工業化學科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 無機工業化學ニ關スル試験研究
- 二 無機工業化學ニ關スル物料及礦産物ノ試験、分析、檢定及鑑定

第十二條 工業部電氣化學科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 電氣化學ニ關スル試験研究

第十三條 工業部醱酵工業科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 醱造及醱酵菌類ニ關スル試験研究

二三

- 二 釀造及醱酵ノ化學ニ關スル試驗研究
 - 三 酒類、酒精、及其ノ材料品ノ分析試驗ニ關スル事項
 - 四 其ノ他釀造ニ關スル試驗研究
- 第十四條 衛生部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 細菌學及原生動物學ニ關スル試驗研究
 - 二 傳染病及寄生蟲病ノ病源、病理、豫防法及治療法ニ關スル試驗研究
 - 三 熱帶衛生ニ關スル試驗研究
 - 四 實驗的病理學及治療學ニ關スル試驗研究
 - 五 衛生化學ニ關スル試驗研究
 - 六 血清、痘苗及細菌學的豫防治療品等ノ製造及配付
 - 七 醫療用藥品ノ検査
 - 八 其ノ他衛生ニ關スル試驗研究

- 第十五條 講習及講話ニ關スル事項ハ各其ノ主管部ニ於テ之ヲ行フ
- 第十六條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 職員ノ進退及身分ニ關スル事項
 - 二 機密、官印及公文書ニ關スル事項
 - 三 圖書、器具及機械ノ保管ニ關スル事項
 - 四 會計及統計ニ關スル事項
 - 五 部ノ主管ニ屬セサル事項
- 第十七條 庶務課ニ課長ヲ置キ事務官ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十八條 各科ニ科長ヲ置キ技師中ヨリ所長之ヲ命ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府中央研究所支所事務分掌規程(大正十年九月府訓令第一五六號)
改正昭和二年府訓令第六四號

二六

- 第一條 士林園藝試驗支所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 園藝作物ニ關スル試驗及調査
 - 二 種苗ノ改良、育成及配布
- 第二條 平鎮茶業試驗支所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 茶樹ニ關スル試驗及調査
 - 二 製茶ニ關スル試驗及調査
 - 三 種苗ノ改良、育成及配布
- 第三條 嘉義農事試驗支所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 熱帶農作物ニ關スル試驗及調査
 - 二 熱帶園藝作物ニ關スル試驗及調査

- 三 種苗ノ改良、育成及配布
- 第四條 高雄檢糖支所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 砂糖ノ分析、檢定及試驗
 - 二 肥料其ノ他砂糖ニ關係アル物料ノ分析、檢定及試驗
 - 三 砂糖ニ關係アル光學器械類ノ檢定
- 第五條 恒春種畜支所、嘉義種畜支所、大埔種畜支所ニ於テハ各左ノ事務ヲ掌ル
- 一 畜産ニ關スル試驗及調査
 - 二 種畜ノ改良、育成及配布
- 第六條 嘉義林業試驗支所、恒春林業試驗支所ニ於テハ各左ノ事務ヲ掌ル
- 一 有用樹木ニ關スル試驗及調査
 - 二 種苗ノ改良育成及配布

二七

第七條 臺中藥品試驗支所、臺南藥品試驗支所ニ於テハ各左ノ事務ヲ掌ル
一 藥品ノ試驗及封緘

第八條 支所ニ支所長又ハ主任ヲ置キ技師又ハ技手中ヨリ所長之ヲ命ス
第九條 支所長又ハ主任ハ所長及當該部長ノ指揮ヲ受ケ支所ノ事務ヲ掌理ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十年訓令第百三十號臺灣總督府殖産局糖業試驗場規程、明治四十一年訓令第五號殖産局附屬園藝試驗場規程、明治四十三年訓令第二十七號殖産局附屬茶樹栽培試驗場規程、大正七年訓令第百二十三號園藝試驗場嘉義支場規程、大正八年訓令第百二號殖産局附屬林業試驗場規程及大正八年訓令第百九十號殖産局附屬種畜場規程ハ之ヲ廢止ス

○臺灣總督府中央研究所支所名稱及位置 (大正十五年 府令第一二五號)

名	稱	位	置
中央研究所	臺中藥品試驗支所	臺中市	臺中市
中央研究所	臺南藥品試驗支所	臺南市	臺南市
中央研究所	高雄檢糖支所	高雄市	高雄市
中央研究所	嘉義農事試驗支所	嘉義市	嘉義市
中央研究所	士林園藝試驗支所	士林區	士林區
中央研究所	恒春種畜支所	恒春鎮	恒春鎮
中央研究所	大埔種畜支所	大埔鎮	大埔鎮
中央研究所	不鎮茶業試驗支所	不鎮	不鎮
中央研究所	嘉義林業試驗支所	嘉義市	嘉義市
中央研究所	恒春林業試驗支所	恒春鎮	恒春鎮

○臺灣總督府中央研究所評議會規程 (大正十一年 府令第140號)

- 第一條 評議會ニ議長ヲ置キ所長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第二條 議長故障アルトキハ臨時ニ會員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ
- 第三條 所長ハ評議會ニ部會ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 部會員ハ評議會員中ヨリ所長之ヲ命ス
- 第五條 部會ニ部會長ヲ置キ所長之ヲ命ス
- 第六條 評議會及部會ハ所長之ヲ招集ス
- 第七條 評議會及部會ハ會員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
- 第八條 評議會及部會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長又ハ部會長ノ決スル所ニ依ル

- 第九條 議長ハ會務ヲ總理シ其ノ決議ヲ所長ニ開申ス
 - 第十條 評議會ニ書記ヲ置キ所長之ヲ命ス
- 書記ハ議長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府中央研究所依頼試驗規則 (昭和二年十二月 府令第64號 改正府令第49號)

- 第一條 産業及衛生ニ關スル物件ノ分析、試驗、檢査、檢定又ハ鑑定ヲ出願セン
トスル者ハ供試品及手數料ヲ添ヘ別記第一號書式ノ願書ヲ提出スヘシ
- 砂糖ニ關係アル光學器械類ノ檢定ヲ受ケントスル者ハ現物及手數料ヲ添ヘ別記
第一號書式ノ願書ヲ提出スヘシ
- 藥品ノ試驗又ハ小分封緘ヲ受ケントスル者ハ別記第二號書式ノ願書ニ現品及手

敷料ヲ添へ提出スヘシ但小分封緘出願ノ場合ニ在リテハ封緘箇數確定後手数料ヲ納入スルコトヲ得

燃料用變性酒精製造用石油ノ検査封緘ヲ出願セントスル者ハ現品ヲ提出シ別記第三號書式ノ願書ニ手数料ヲ添へ出願スヘシ但臺灣總督府中央研究所長(以下單ニ中央研究所長ト稱ス)ノ指定スル官吏又ハ收稅官吏立會ノ上採取シタル場合ニ在テハ別記第四號書式ノ願書ニ現品ノ一部ヲ添へ検査證明ヲ出願スルコトヲ得

産業及衛生ニ關シ試驗研究調査又ハ指導ヲ出願セントスル者ハ願書ヲ提出シ中央研究所長ノ定ムル手数料ヲ納入スヘシ

第二條 前條第一項ノ規定ニ依ル供試品ノ分量及手数料左ノ如シ但シ必要ト認めル場合更ニ相當分量ノ供試品ヲ提出セシムルコトアルヘシ
一 岩石、礦物、金屬、合金、土壤、礦產物及肥料

定性分析	每一件	一成分金二圓	一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ
定量分析	每一件	一成分金二圓	一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
主要成分又ハ全成分ノ定量分析	每一件	金五圓以上十五圓以内	
岩石及礦物ノ顯微鏡ニ依ル檢定	每一件	金五圓	
一「キログラム」以上	每一件	金五圓	
金屬及合金ノ顯微鏡ニ依ル檢定	每一件	金五圓	
百「グラム」以上	每一件	金二圓	
金屬及合金ノ熔點點試驗	每一件	金二圓	
百「グラム」以上	每一件	一成分金二圓	一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
金屬ノ乾式定量分析	每一件		
五百「グラム」以上	每一件		
土壤ノ器械分析	每一件		

- 二「キログラム」以上 每一件 金十圓
土壤ノ理學的性質、試験、檢定
- 二「キログラム」以上 每一件 金二圓以上十圓以内
農産物、農産製造品及飼料
定量分析
- 三百「グラム」以上 每一件 一成分金二圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
主要成分又ハ全成分ノ定量分析
- 三百「グラム」以上 每一件 金五圓以上十五圓以内
砂糖及砂糖關係物料
- 三百「グラム」以上 每一件 金一圓
糖蜜及糖水
- 二「キログラム」以上 每一件 金一圓
砂糖關係物料
- 百「グラム」以上 每一件 一成分金一圓 一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ
定性分析

四

- 四 土石及其ノ製品 相當分量 每一件 一成分金二圓 一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ
土石又ハ其ノ製品ノ耐火度、收縮度又ハ膨脹度ノ試験
- 一「キログラム」又ハ二箇以上 每一件 金三圓
硝子、煉瓦、瓦ノ原料試験
- 五「キログラム」以上 每一件 金三圓以上五圓以内
陶磁器ノ原料及其ノ應用試験
- 五「キログラム」以上 每一件 金三圓以上五圓以内
「セメント」、火山灰、哇藻土類ノ比重、一定容量ノ重量、粉末ノ程度、凝結、膨脹性、龜裂又ハ抗張力ノ試験
- 一「キログラム」以上 每一件 金一圓
「セメント」、火山灰、哇藻土類ノ耐壓力ノ試験
- 三「キログラム」以上 每一件 金二圓
「セメント」類ノ透透度ノ試験
- 一「キログラム」以上 每一件 金三圓

砂又ハ砂利ノ比重、一定容量ノ重量、空隙、粒子ノ細粗、泥土ノ含有量ノ試験

二十「キログラム」乃至百「キログラム」 每一件 金二圓

「セメント」抗張力ニ對スル砂ノ試験

五「キログラム」以上 每一件 金一圓

「セメント」耐壓力ニ對スル砂ノ試験

二十「キログラム」以上 每一件 金二圓

混凝土ノ耐壓力ノ試験

五十「キログラム」以上又ハ三箇以上 每一件 金二圓以上十圓以内

石材、煉瓦又ハ瓦ノ吸水量ノ試験

八箇以上(石材ハ五種立方以上ノモノ) 每一件 金一圓

石材、煉瓦又ハ瓦ノ抗張力又ハ耐壓力ノ試験

八箇以上(石材ハ加壓面五十平方種以上ノ立方體) 每一件 金二圓以上三十圓以内

木材

五 十本以上(無疵通直ニシテ六種角、長サ七十五種) 每一件 金三圓

抗壓強(縱斷、横斷)ノ試験

十箇以上(無疵通直ニシテ六種立方體) 每一種一件 金二圓

抗伸強ノ試験

十本以上(無疵通直ニシテ三種角、長サ三十種) 每一件 金二圓

抗剪強ノ試験

十箇以上(無疵通直ニシテ六種角、長サ七種) 每一件 金二圓

抗割強ノ試験

十箇以上(無疵通直ニシテ六種、三種角、長サ二十五種) 每一件 金二圓

硬度及比重ノ試験

十箇以上(無疵通直ニシテ六種、立方體) 每一件 金二圓

鐵釘類保持力ノ試験

相當數(無疵通直ニシテ適當大) 每一件 金三圓

六 油脂、蠟、精油、瀝青質類

比重、粘度、凝點、融點、沸點、硫酸上昇溫度、揮發損失分、灼熱減量、引火點、燃燒點、光度又ハ屈折率ノ試験

一「リットル」又ハ五百「グラム」以上
沃度價、酸價、鹼化價、酸又ハ「アルカリ」作用若ハ金屬ニ對スル作用ノ試験
百立方「センチ」又ハ五百「グラム」以上
含量試験
每一件 金一圓

二「キログラム」以上
分溜試験
每一件 金三圓以上三十圓以内

七 塗料及顔料
一「リットル」又ハ五百「グラム」以上 每一件 金五十錢
塗料又ハ顔料ノ品種、性質、品位等ノ檢定
相當分量 每一件 金一圓以上五圓以内
色彩、光澤、與色力、被覆力、耐久度、粉末度、可濕性等ノ檢定
相當分量 每一件 金一圓

八 紙、纖維、絲、織布類
紙ノ品種、性質、品位等ノ檢定
相當分量 每一件 金一圓以上五圓以内

九 水、水及礦泉
強度、耐伸強度、伸張度、耐折度、纖維、填料、色料、サイズ、耐水度、耐濕度、吸收度、透明
度等ノ檢定 每一件 金一圓
材料ノ組織、強度、伸度又ハ染色ニ對スル日光、摩擦、水、石鹼、酸若ハ「アルカリ」作用試験
每一件 金一圓

定性分析
一「リットル」又ハ二「キログラム」以上 每一件 金五圓
定量分析
一「リットル」又ハ十「キログラム」以上 每一件 金十圓以上金二十圓以内
一成分以上ヲ指定シ試験ヲ出願スル場合定性分析ハ一成分 金一圓 一成分ヲ増ス每三
金五十錢ヲ加ヘ定量分析ハ一成分 金二圓 一成分ヲ増ス每二金一圓ヲ加フ
飲料適否試験
一「リットル」又ハ五「キログラム」以上 每一件 金三圓以上金十圓以内
工業用水試験

四〇

- 十「リットル」以上 每一件 金二圓以上三十圓以内
- 灌漑用水試験 每一件 金二圓以上三十圓以内
- 十「リットル」以上 每一件 金二圓以上三十圓以内
- 一〇 飲食物、化粧品着色料及飲食物器具類 每一件
- 飲食物又ハ化粧品類ノ定量分析 每一件 金二圓以上三十圓以内
- 酒類、醬油又ハ清涼飲料水類ハ「リットル」以上 每一件
- 乳汁類ハ六百立方糎、人乳ハ百立方糎以上 每一件
- 其ノ他食料品類ハ三百「グラム」以上 每一件 一成分金二圓 一成分ヲ増ス毎ニ金二圓ヲ加フ
- 飲食物又ハ化粧品類ノ主要成分又ハ全成分ノ定量分析 每一件 金五圓以上十圓以内
- 前同量 每一件 金五圓以上十圓以内
- 飲食物中毒物ノ試験 每一件 金十圓
- 三百「グラム」以上 每一件 金十圓
- 飲食物ノ衛生上ノ害否試験 每一件 金五圓以上十圓以内
- 三百「グラム」以上 每一件 金五圓以上十圓以内

- 飲食物中防腐劑、人工甘味質又ハ有害金屬有無試験 每一件 金二圓
- 一「リットル」又ハ三百「グラム」以上 每一件 金二圓
- 着色料、化粧品又ハ飲食物用器具類ノ衛生上ノ適否試験 每一件 金二圓
- 二百「グラム」又ハ三箇以上 每一件 金二圓
- 細菌、寄生蟲又ハ血清其ノ他病毒 每一件 金五十錢
- 細菌又ハ寄生蟲ノ顯微鏡検査 每一件 金五十錢
- 相當分量 每一件 金五十錢
- 「ウイダール」反應検査又ハ類似ノモノ 每一件 金五十錢
- 相當分量 每一件 金五十錢
- 「ワツセルマン」反應検査又ハ類似ノモノ 每一件 金一圓五十錢
- 相當分量 每一件 金一圓五十錢
- 細菌ノ培養試験 每一件 金一圓
- 相當分量 每一件 金一圓
- 狂犬病毒ノ有無試験 每一件 金五圓
- 可檢體ノ臍若ハ骨髓ノ挿指頭大チ「グリセリン」ニ浸漬シタルモノ 每一件 金五圓

消毒薬ノ殺菌效力試験

相當分量 每一種一件 金二圓以上十圓以内

前項ニ規定ナキモノニ付テハ其ノ供試品ノ分量、手數料又ハ期日ヲ限ル分析、試験、検査、檢定ノ出願ニ對スル手數料ハ中央研究所長之ヲ定ム

第三條 第一條第二項ノ規定ニ依ル手數料左ノ如シ

一 檢糖機ノ檢定 每一件 金三圓以上七圓以内

二 石英標準板、蓋硝子又ハ觀測管ノ檢定 每一件 金十圓以上一圓以内

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 第一條第三項ノ規定ニ依ル手數料左ノ如シ

一 藥品ノ日本藥局方適否試験 每一口 金二十錢

同 成績書正本 一通 金三十錢

同 合格封緘 一筒 金二錢五厘

二 藥品ノ小分封緘又ハ其ノ貼換 一筒 金二錢五厘

前項一口ノ範圍及期日ヲ限ル藥品ノ試験、小分封緘ノ出願ニ對スル手數料ニ付テハ中央研究所長之ヲ定ム

第四條ノ二 第一條第四項ノ規定ニ依ル供試品ノ分量及手數料左ノ如シ

一 適否試験 一筒 金五十錢

検査證明出願ノ場合ニ在リテハ「ロット」以上 一通 金三十錢

二 検査證明書 一筒 金五錢

三 検査證票 一筒 金五錢

第五條 前四條及第八條ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納入スヘシ

第六條 供試品ハ之ヲ還付セス但シ出願ノ際豫メ申出アリタルモノハ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第七條 第一條第一項ノ出願者ハ成績書正本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第一條第一項乃至第四項ノ出願者ハ手數料ヲ納入シテ成績書原本検査證明書原本檢定書及檢定書原本検査證明書原本又ハ翻譯文ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第八條 前條第二項ノ手数料ハ翻譯文一通ニ付金五十錢以上五圓以內其ノ他ハ一通ニ付金十錢トス

第九條 第一條第四項ノ規定ニ依ル手数料ハ左記各號ノ經費トス
一 器具、機械ノ購入費又ハ使用料及其ノ他ノ設備費、運搬費
二 消耗品費
三 備入料
四 其ノ他必要ナル經費

第十條 第一條ノ出願ニ付職員ノ出張ヲ要スルモノハ官職相當ノ旅費其ノ他必要ナル經費ヲ負擔スヘシ

第十一條 本令ノ手数料ハ官廳ノ請求ニ係ルモノニ付テハ之ヲ徵收セス

附則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十一年府令第五百五十八號ハ之ヲ廢止ス
舊式略

所告示第六號 (昭和三年三月二十六日)

昭和二年府令第六十四號臺灣總督府中央研究所依頼試驗規則第二條第二項及第四條第二項ノ規定ニ依ル期日ヲ限ル出願ニ對スル手数料及藥局方適否試驗ニ對スル一口ノ範圍

第一條 期日ヲ限ル産業及衛生ニ關スル物件ノ分析、試驗、檢査、檢定ノ出願ニ對スル手数料左ノ如シ

一 急願(普通願ニ先ツ) 每一件 規定料金ノ三倍
二 至急願(急願ニ先ツ) 每一件 規定料金ノ五倍

第二條 期日ヲ限ル藥品ノ日本藥局方適否試驗及小分封緘ニ對スル手数料左ノ如シ

一 急願(普通願ニ先ツ) 同種 每一口又ハ、規定料金ノ外金一圓
二 至急願(急願ニ先ツ) 同種 每一口又ハ、規定料金ノ外金二圓

第三條 藥品ノ日本藥局方適否試驗出願ニ對スル一口ノ範圍左ノ如シ

四六

- 一 容器ノ内容量 二千五百「グラム」ニ千粒、丸、錠以下ノモノ
同種 五十箇以内
 - 二 容器ノ内容量 二十五「キログラム」以下ノモノ
同種 二箇以内
 - 三 容器ノ内容量 二十五「キログラム」ヲ超過スルモノ
同種 一箇
- 蒸餾水及常水ニ對シテハ前項ニ依ラス一口ノ範圍左ノ如シ
- 一 容器ノ内容量 二十七「キログラム」以下ノモノ
同種 四箇以内
 - 二 容器ノ内容量 二十七「キログラム」ヲ超過スルモノ
同種 一箇

第四條 第二條及前條ニ於テ同種トハ藥名箋、封緘者、製造者、商標、内容量、

製造年月日及封緘番號各同一ナルヲ謂フ
第五條 藥品ノ小分封緘每一箇ノ内容量ハ左記區別ニ依ル但シ一「キログラム」以上及〇、五「グラム」以下ハ任意トス

- 一「キログラム」 五〇〇「グラム」
- 二五〇「グラム」 一〇〇「グラム」
- 五〇「グラム」 二五「グラム」
- 一〇「グラム」 五「グラム」
- 一「グラム」 一「グラム」
- 〇、五「グラム」

附則

本規程ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本規程施行後六箇月間ハ第五條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得

○臺灣總督府中央研究所血清其ノ他細菌學的豫防治療品

賣捌規程 (昭和四年四月 府告示第四七號)

第一條 臺灣總督府中央研究所ニ於テ製造賣捌ヲ爲ス血清其ノ他細菌學的豫防治療品ノ種類及定價左ノ如シ但シ本島内ハ運送賃ヲ要セス

豫防用ワクチン

腸チフス菌ワクチン	十人分 一壺 金一圓	イ
同	二十人分 一壺 金二圓	ロ
バスター菌ワクチン	十人分 一壺 金一圓	ホ
同	二十人分 一壺 金二圓	ヘ
流行性腦脊髄膜炎菌ワクチン	十人分 一壺 金一圓二十錢	ト
同	二十人分 一壺 金二圓四十錢	チ
コレラ菌ワクチン	十人分 一壺 金一圓	リ
		ユ

電信略符

同	二十人分 一壺 金二圓	メ
インフルエンザ菌混合ワクチン	十人分 一壺 金一圓四十錢	ル
同	二十人分 一壺 金二圓八十錢	レ
同	五人分 一壺 金七十錢	ヲ
同	十人分 一壺 金一圓四十錢	カ
同	二十人分 一壺 金二圓八十錢	ロ
同	五人分 一壺 金七十錢	タ
同	十人分 一壺 金一圓四十錢	セ
同	二十人分 一壺 金二圓八十錢	ソ
同	五人分 一壺 金七十錢	ツ
同	十人分 一壺 金一圓四十錢	ネ
同	二十人分 一壺 金二圓八十錢	ナ
同	五人分 一壺 金八十錢	ラ
同	十人分 一壺 金一圓四十錢	ム
同	二十人分 一壺 金二圓八十錢	メ

同	狂犬病豫防劑	二十人分 一具 金三十二錢 一人分(十八回注射)一劑 金五圓	ウ	ト
	治療用ワクチン			
	感作腸チフス治療液	(二〇〇珽)一壺 金一圓	マ	ノ
	麻菌ワクチン	(二〇〇珽)一壺 金一圓五十錢	マ	ソ
	腸チフス診断液	(三〇〇珽)一壺 金一圓	フ	フ
	パラチフスA型診断液	(三〇〇珽)一壺 金一圓	コ	コ
	パラチフスB型診断液	(三〇〇珽)一壺 金一圓	テ	カ
	腸チフス菌診断用血清(家兎)	(三〇〇珽)一壺 金一圓	ア	ア
	パラチフスA型菌診断用血清(家兎)	(三〇〇珽)一壺 金一圓	サ	サ
	パラチフスB型菌診断用血清(家兎)	(三〇〇珽)一壺 金一圓	キ	キ
	赤痢木型菌診断用血清(家兎)	(三〇〇珽)一壺 金一圓	ユ	ル

五〇

赤痢異型菌診断用血清(家兎)	(三〇〇珽)一壺 金一圓	シ	メ
コレラ菌診断用血清(家兎)	(三〇〇珽)一壺 金一圓	シ	チ
治療用血清			
あなへび(赤尾鮎)毒治療血清	(四〇〇珽)一壺 金三圓	エ	ニ
たいわんば(龜殼花)毒治療血清	(四〇〇珽)一壺 金三圓	タ	ハ
たいわんこぶら(飯匙倩)毒治療血清	(二〇〇珽)一壺 金三圓	モ	ロ
あまがさへび(兩傘節)毒治療血清	(二〇〇珽)一壺 金三圓	セ	イ

前項ノ外依頼ニ依リ血清其ノ他細菌學的豫防治療品ヲ製造賣捌チナス場合ハ臺灣總督府中央研究所長其ノ價格ヲ定ム

第二條 前條ノ血清其ノ他細菌學的豫防治療品ノ賣渡ヲ請求シ得ル者ハ官衙、公署、公共團體、醫師、藥劑師又ハ藥種商ニ限ル

第三條 藥局ヲ開設シタル藥劑師又ハ藥種商ニ賣渡ス場合ハ定價ノ三割以内ヲ減スルコトアルヘシ

五二

第四條 官衛、公署、公共團體ニ賣渡ス場合ハ定價ノ五割以內ヲ減スルコトアル
 ヘシ但シ痘苗以外ノモノニ在リテハ一回ノ請求千人分以上ノ場合ニ限ル

第五條 代金ハ前納(官衛ハ後納妨ナシ)スヘシ

附 則

大正十一年告示第二十四號ハ之ヲ廢止ス

○血清其ノ他細菌學的豫防治療品賣捌規定ニ依ル割引率 (昭和四年四月 所告示第七號)

第三條ニ依ル割引 定價ノ三割減
 第四條ニ依ル割引 定價ノ五割減

痘苗以外ノモノニ在リテハ定價ヨリ各下記ノ割合ヲ以テ減シタル金額ノ合算額
 千人分 三割減
 千人分ヲ超過シタル場合ハ其ノ超過數量ニ對シ 四割減
 五千人ヲ超過シタル場合ハ其ノ超過數量ニ對シ 五割減

○臺灣總督府中央研究所種畜貸付規則 (大正十四年 府令第五十九號)

第一條 本令ニ於テ種畜ト稱スルハ種牛、種馬及種綿羊ヲ謂フ
 第二條 種畜ノ改良蕃殖ヲ計ル爲臺灣總督ハ必要ト認ムル地方ヲ指定シ左ニ掲ク
 ル者ニ無償ニ種畜ノ貸付ヲ爲スコトアルヘシ

五三

一 農會又ハ種畜ノ改良蕃殖ヲ目的トスル團體
二 畜産業ニ關スル經驗アル者

第三條 種畜ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ別記第一號様式ニ依リ許可申請書ヲ臺灣總督府中央研究所長(以下單ニ中央研究所長ト稱ス)ニ差出スヘシ
貸付ノ許可ヲ得タル者ハ別記第二號様式ニ依リ借用證ヲ差出シ種畜ヲ受領スヘシ

前項種畜ノ受授ハ臺灣總督府中央研究所種畜支所ニ於テ之ヲ爲ス但シ必要ノ場合ニ於テハ同支所以外ニ於テ之ヲ爲スコトアルヘシ種畜返納ノ場合亦同シ

第四條 借用人貸付種畜ノ飼養地ヲ定メ又ハ管理人ヲ置キタルトキハ其ノ都度中央研究所長ニ報告スヘシ
飼養地ヲ變更シ又ハ管理人ヲ解任シタルトキ亦同シ

第五條 貸付種畜ヨリ生スル果實ハ借用人ノ所得トス

第六條 貸付種畜ノ斃死、撲殺、失踪ノ場合又ハ疾病ニ罹リ使用ニ堪ヘサルニ至リタルトキハ其ノ理由ヲ詳具シ遲滞ナク中央研究所長ニ届出ツヘシ但シ斃死又ハ撲殺ノ場合ニ於テハ獸醫ノ診斷書ヲ添附スルヲ要ス

第七條 貸付種畜ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ借用人ハ遲滞ナク之ニ治療ヲ加ヘ其ノ狀況ヲ中央研究所長ニ届出ツヘシ

第八條 借用人ハ別記第三號乃至第七號様式ニ依リ貸付種畜ノ前年ニ於ケル蕃殖狀況、産仔ノ生育狀況及改良ノ成績等ヲ毎年一月中ニ中央研究所長ニ報告スヘシ

第九條 種畜ノ貸付期間ハ種牛馬ハ滿十年種綿羊ハ滿五年トス但シ時宜ニ依リ其ノ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十條 種畜ノ貸付返納ニ要スル費用ハ借用人ノ負擔トス
第十一條 中央研究所長ハ隨時官吏ヲシテ貸付種畜及其ノ産仔ノ狀況ヲ臨檢セシ

ムルコトアルヘシ

借用人ハ前項ノ臨檢ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 中央研究所長ハ貸付種畜、其ノ産仔又ハ其ノ管理飼養ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第十三條 借用人カ本令ノ規定又ハ前條ニ依リ中央研究所長ノ特ニ發シタル命令ニ違反シタルトキハ中央研究所長ハ借用人ニ對シ貸付種畜ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 借用人カ故意又ハ怠慢ニ因リ貸付種畜ニ損害ヲ與ヘタルトキハ其ノ評定價格ノ全部又ハ一部ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

第十五條 種畜ノ貸付ヲ受ケムトスル者又ハ種畜ノ借用人カ中央研究所長ニ差出スヘキ書面ハ所轄州又ハ廳ヲ經由スヘシ
知事又ハ廳長前項ニ依リ許可申請書ヲ受領シタルトキハ其ノ資格ヲ審査シ意見

ヲ附シテ中央研究所長ニ送付スヘシ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ現在貸付タル種畜ニ之ヲ準用ス
別記様式略

○種苗配付規程 (昭和二年十月十八日 所告示第五號)

第一條 臺灣總督府中央研究所ニ於テ生産スル種苗ハ左ニ列記スル者ニ對シ無償ニテ之ヲ配付スルコトアルヘシ

一 州、廳農事試驗場

二 州、廳、市街庄、農會、農事組合其ノ他ノ團體ニシテ試作ヲ爲シ或ハ採種圃ヲ設置スル者

三 臺灣總督府中央研究所長ニ於テ特ニ配付ノ必要アリト認ムル者

第二條 種苗ノ配付ヲ受ケタル者ハ之ヲ原種又ハ試作用トシテ植栽若ハ栽培スヘシ

第三條 種苗ノ配付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ種類、品種及數量ヲ記入シタル願書

- ヲ臺灣總督府中央研究所長宛左記箇所ニ提出スヘシ
- 農産種苗 臺灣總督府中央研究所農藥部
- 果樹種苗 士林園藝試驗支所
- 茶樹種苗 平鏡茶業試驗支所
- 農産種苗、果樹種苗 嘉義農事試驗支所
- 林木種子、苗木及挿穂 林業部
- 同 嘉義林業試驗支所
- 同 恒春林業試驗支所

第四條 配付スヘキ種苗ノ數量ハ左ノ如シ

- 一 稻種 子 每一品種 三升以内
- 一 普通農産種子 同 五合以内
- 一 甘藷 種藷 同 千五百本以内
- 一 甘藷 種藷 同 四貫匁以内

- 一 蔬菜種子 同 一袋以内
- 一 蔬菜種根莖 同 一貫匁以内
- 一 果樹苗木 同 二十五本以内
- 一 鳳梨苗木 同 千本以内
- 一 茶樹苗木 同 八十種以内
- 一 觀賞用林木種苗 種子 五合以内
- 一 觀賞用林木種苗 苗木及挿穂 五十本以内
- 一 造林用林木種苗 種子 六升以内
- 一 造林用林木種苗 苗木及挿穂 三千本以内

採種圃ヲ設置スル者ニ配付シ又ハ特別ノ事由アル場合ハ前項ノ規定ニ依ラサルコトアルヘシ

第五條 果樹苗木及茶樹苗木ノ配付ヲ受ケタル者ハ爾後同一品種ニ付配付出願ヲ爲スコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 出願者種苗配付許可ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ之ヲ受領ス

ヘシ

正當ノ事由ナクシテ前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ配付許可ヲ取消スコトアルヘシ

第七條 種苗ヲ受領シタルトキハ直ニ受領書ヲ提出スヘシ

第八條 臺灣總督府中央研究所長ハ配付ヲ爲シタル種苗ノ植栽又ハ栽培ニ關シ必要ナル報告ヲ徵スルコトアルヘシ

第九條 參考用トシテ種苗ノ配付ヲ爲ス場合ハ本規程ヲ準用ス

